

# ベンチでの基本的な指導者の言動等について

東大阪市ミニバスケットボール協会

## ゲーム前

- ・ 試合開始 1 分前までに、メンバー表の提出を行う。（第 1 ピリオドに出場する選手のチェックがされたもの）
- ・ ベンチ入りできるのは大会要項に定められた選手，スタッフだけである。  
原則的にはヘッドコーチ（監督），アシスタントコーチ，マネージャー，選手，各学校関係者（学校管理職等）である。  
これ以外のチーム関係者は，ベンチの後ろや T O 周辺からの応援は認められない。
- ・ 試合開始前には，相手コーチと握手で交流をはかる。  
相手に対する過度の敵対心等は，荒れたゲームの原因となることがある。  
相手があって試合ができることを忘れてはならない。  
にこやかに相手コーチと談笑する姿は，子どもたちや応援の保護者にも必ずよい影響を与える。
- ・ 試合の開始前には，審判・テーブルオフィシャルに礼儀正しく挨拶する。  
この姿勢を見せることは，円滑・かつ公正にゲームを進めるためである。  
審判に対して，また，テーブルオフィシャルにも礼節を尽くすのはスポーツの指導者としての模範となり得る姿勢である。
- ・ 指導者から審判に握手を求める  
どのような試合であっても，審判はジャッジすることに不安を抱えているものである。笑顔を見せ，審判を安心させることは，円滑で楽しいゲームづくりの一つのテクニックであり，指導者の義務である。  
審判は貴重な時間を割いて自分のチームの為に奉仕していることを忘れてはならない。「審判がいて，ゲームが成立する」という謙虚な姿勢を忘れてはならない。
- ・ 1 分前のコールまでに，第 1 ピリオドに出場する選手のチェックをし，1 分前のコールの後はウォーミング・アップを終えて速やかにベンチに戻るよう伝え，第 1 ピリオドに出場する選手を整列させる。
- ・ 試合開始時には，ベンチの全員を起立させ，コーチ自身も審判・相手チーム・T O にきちんと礼をする。

## ゲーム中

- ・ ベンチ内で立って指示できるのは，1 名のみである。
- ・ ベンチ内の選手は立って応援してはならない。また，うちわ等を使っての応援は禁止です。マナーを守って応援するようにする。
- ・ タイムアウトの請求のために T O に歩み寄る，負傷者の確認のため審判がコートに招き入れる以外は，意図的にゲーム中に定められたベンチエリアを離れたり，コートに踏み込む事は許されない。
- ・ タイムアウト時に，コートを使用した指導は認められない。

- ・ 選手のテクニカルファール（ランニングシュートコースの意図的な走り抜け・相手選手への罵倒等、身体接触のないバスケット選手にあるまじき行為）がもう一度繰り返された時は、ミニの精神に乗り取り、コーチの責任となる。  
上記に反する、または繰り返される場合は、ヘッドコーチ自身の責任でなかったり意図的でなかったりしても、テクニカルファールとなる。
- ・ 選手への言動による暴力は、その軽重に関わらず、ただちにテクニカルファールとなる。
- ・ ベンチの椅子を蹴ったり、物を投げたりする行為は、その軽重に関わらず、ただちにテクニカルファールとなる。

## ・ 審判に対しての礼節を欠いた言動は、ただちにテクニカルファールとされても致し方ない。

- ・ 判定や処置に質問がある時は、ヘッドコーチだけが礼儀正しい態度で質問することができる。ただし、質問によって判定をくつがえすことを目的としてはならない。  
あくまで、子どもたちの「次の」プレーの指針を示すことを目的とする。
- ・ ベンチの選手、またはアシスタントコーチに節度のない行いがある場合は、審判の警告の後、ヘッドコーチのテクニカルファールとなることがある。
- ・ 選手への試合中の言葉かけは、それぞれの指導者の個性であるが、ゲームの進行や相手チームの選手にまで影響を及ぼすような目に余る言動は、審判の警告の後、テクニカルファールとなることがある。

審判は、ルールに対する違反について判定を下す権限を持っているが、ただ厳格に判定を下すだけではない。プレイヤーの運動能力や技術に差があることを考慮に入れ判定の適用は常に指導の心を加味して行うことを心にとめている。

つまりミニにおいて審判とは、「楽しさ」を演出する「指揮者」であり、これから長くスポーツに触れ合っていく小学生にスポーツの基本を見せることである。

小学生に、勝敗だけにこだわるマイナスの姿勢を模倣させないようにしましょう。

我々は、中学生や高校生ではなく小学生を導いていることを忘れないように。

# ゲーム後

- ・ ベンチに挨拶に来る相手チームにあたたかい拍手を送る。
- ・ 相手チームのコーチと握手等で交流をはかる。
- ・ 審判に握手を求め、試合成立への協力の感謝を伝える。
- ・ 負けオフィシャル・勝ちオフィシャルは事前に確認しておき、次ゲームに影響のないように心掛ける。

TOには必ずチーム指導者がつく。監督が1名で審判等の場合は、保護者代表でもよい。

## タイムアウトに関して

- ・ タイムアウトの請求は、笛がなるか、シュートを入れられる前に完了しておかなければ取れない。シュートを入れられてから請求しても無効である。また、『入れられたらタイムアウト』という請求の仕方は存在しない。入れられなくても取り消さない限り次の笛でタイムアウトとなる。

※H19加筆

- ・ フリースローとなるファールであれば、事前に予約がなくとも、審判がシューターにパスする前にタイムアウトを請求できることになった。
- ・ 4Q+フリースロー前でタイムアウトを取った場合、フリースローシューターも交代できる。ただし、フリースローの2本目が決まり、しかも事前に申し込みをしていた場合のみである。フリースローの2本目が決まった時点でタイムアウトを請求したり、交代を申し出たりしても無効である。
- ・ タイムアウトを請求したチームがゲームの準備ができて、60秒のタイムアウト時間は、ベンチ付近で待機する。
- ・ タイムアウトは50秒でオフィシャルが、開始10秒前をブザー告知し、審判が試合開始を促す。60秒経過のブザーは、試合開始の合図とする。選手のコートインが遅れると、5秒バイオレーションとなったり、引き続いてそのチームのタイムアウトと判定されたりする。タイムアウトを使い果たしている場合（自分たちが前のタイムアウトを請求している）は2回目の請求となり、テクニカルファールとなる。

## ◎規則の精神を理解した上で

タイム・アウトの請求や交代の申し出については、できるかぎり寛容にこれらの請求や申し出を認めるというのが規則の精神です。しかしながら、タイム・アウトや交代が認められる時機が終わってしまってから、これらの請求や申し出があり、スコアラーが思わず、合図器具を鳴らしてしまい、審判があらためてゲームを止めたりするようなケースがないよう、各チームは余裕のあるタイミングでタイム・アウトの請求や交代の申し出をするように心がけて下さい。

# 東大阪アリーナのリング・コートの設定方法

1. バックボードをミニの位置に止め直す。（ガタンといかないように前で支える）
2. リングを正規の場所に設置し、スイッチをミニに切り替えてから操作する。  
リングを上げ下げしている間は、油圧ハンドルはゆるめておき、リングのセッティング完了後は、油圧ハンドルを必ず閉めておくこと。
3. スケールを使って2m60に全方向からリングを設定する。  
※ミニに設定した場合、ボードの向きなど、正規とは異なってくることが多いので信用しないように。  
リングのハンドルを4か所とも「手応え」がでる寸前にセットする。  
ハンドルは必ず二人で回転を合わせる。（計三人組）  
センターラインから一人立たせて、バックボードの傾きを見てもらうと完璧。  
前・後を何度も繰り返して全方向2m60cmになるようにする。